

2025年 第19週（5月5日～5月11日）の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

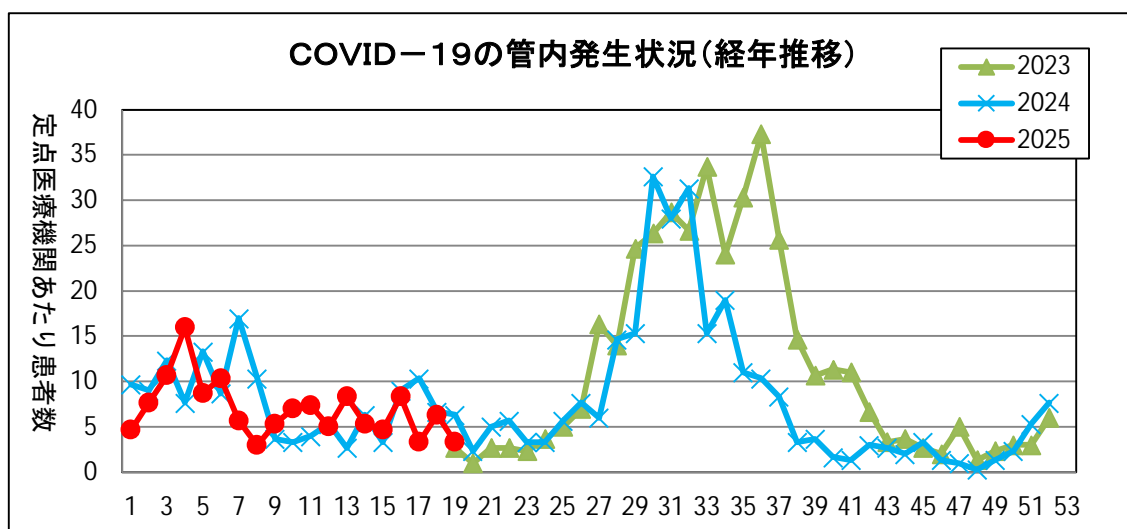
- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 インフルエンザについて
- 3 管内の感染症発生状況（上記2疾患以外のもの）
- 4 県内の感染症発生状況（百日咳）

1 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週3.33人（先週6.33人）で先週から減少し、兵庫県内の定点あたり報告数も今週1.02人（先週1.19人）となり、先週から減少しました。地域別では、宝塚保健所管内が4.40人と最も多く、当所管内及び洲本保健所管内3.33人となっており、年齢別では、50歳代が17%と最も多く、次いで10歳代が15%となっています。

また、県内の社会福祉施設においては、今週1件（先週1件）の集団発生が報告されています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注) 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)に関する情報](#)

[兵庫県感染症情報センター](#)

◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

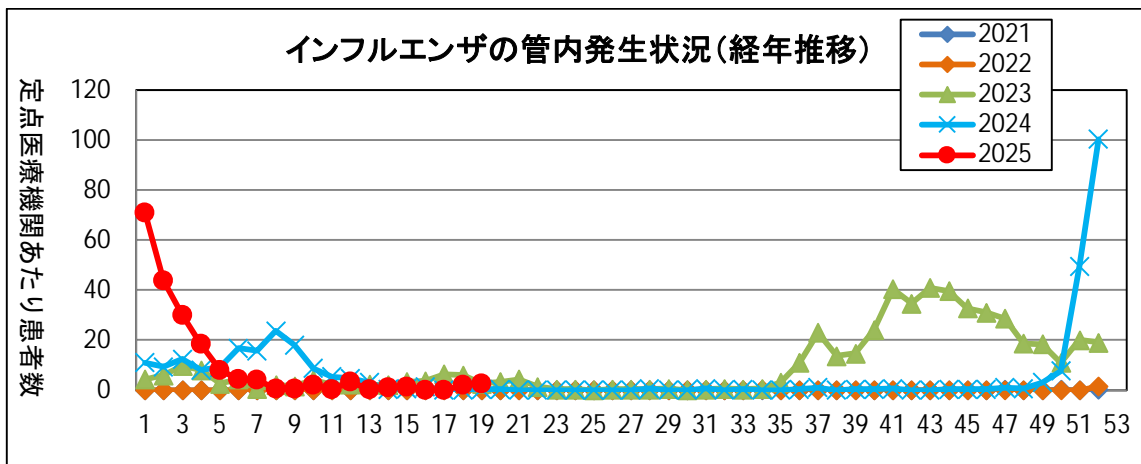
[コロナウイルス感染症](#)

2 インフルエンザについて

管内のインフルエンザの定点あたり患者数は、今週 2.67 人で、先週 (2.00 人) から増加し、兵庫県内の定点あたり患者数は今週 1.01 人で、先週 (1.48 人) から減少しました。

直近の 5 週間に県内の定点医療機関から報告された患者 906 人の年齢分布では、5～9 歳が 28%、10～14 歳が 24%で、15 歳未満が全体の 65%を占めています。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、手洗いが有効です。また、感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケット、早めの受診が重要です。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[インフルエンザ疾患の発生状況\(学級閉鎖・集団発生\)](#)

[兵庫県インフルエンザ情報センター](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[インフルエンザ](#)

3 管内の感染症発生状況(新型コロナ以外のもの)

(1) 管内の全数把握感染症(すべての医療機関から報告を求める感染症)

第19週は、レジオネラ症及び百日咳が各1人報告されました。

(2) 定点把握感染症(指定された医療機関から報告を求める感染症)

(2025年19週) ※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	COVID-19
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
8	2.67	-	-	-	-	1	0.5	10	5

ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎4(ロタウイルス)	急性呼吸器感染症
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-

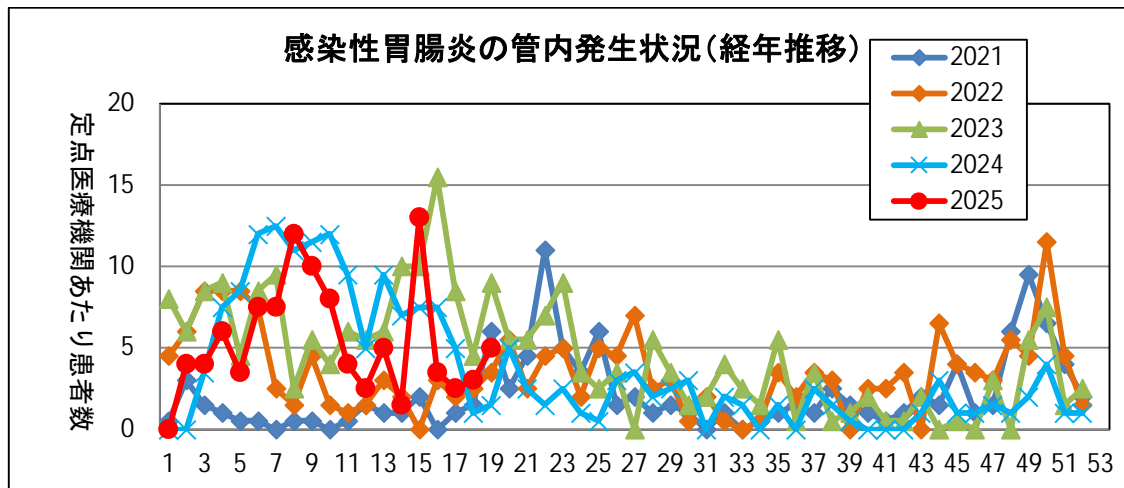
※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症\(ARI\)](#)

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が5.00人で、先週（3.00人）から増加し、兵庫県では6.95人で、先週（7.98人）から減少しました。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[感染性胃腸炎（ノロウイルス等）について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[感染性胃腸炎](#)

4 県内の感染症発生状況（百日咳）

県内では、今週 109 人（先週 91 人）の報告があり、今年の累積患者数は 893 人となりました。当所管内でも 1 人の報告があり、今年の累積患者数は 6 人となっています。県内で今年発生した推定感染経路として、家族内感染が 491 人、学校内流行が 164 人報告されています。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染（飛沫感染）し、7～10 日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります（約 2 週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（約 2～3 週間）。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないので、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[百日咳について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[百日咳](#)

[百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第三版）](#)